

留 学 報 告 書

令和 7年 10月 25日

学 部 法文学部 学科・課程 社会文化学科

氏 名 松尾賢人

1. 留学先大学・学部 国名 ドイツ

大学名 トリーア大学

現地到着日 (2024年 9月24日) 授業開始日 (2024年10月21日)

現地出発日 (2025年 7月24日) 授業終了日 (2025年 7月18日)

2. 日本を出発するまでの主な手続き及び準備

・ドイツの保険への加入

・授業開始前のオリエンテーション料の支払い

・入る寮の確認

3. 自宅から留学先大学までの交通手段 (乗物の種類, 乗り換え地, 所要時間)

徒歩で約15分

4. 留学先大学での各種手続きの仕方

・銀行口座の開設…学校側が、留学生向けに開設手続きを手伝ってくれた。

・在留カードの取得…市役所のような場所に行き、簡単な受け答えをして取得した。

5. 留学生へのオリエンテーションの内容及びプレースメントテストについて

ドイツ語のテストを初めに受け、その能力に応じたクラスに分かれ、約一か月間ドイツ語の勉強をする。

休みの日にはルクセンブルク観光ツアー等が行われた。

6. 授業の受け方、ペーパー及び試験の傾向等について

1人の教師に対して約20人の生徒で授業を受けた。

試験は中間のペーパー試験と、期末のペーパー・面接のテストが行われた。

試験内容は、授業で扱ったテキストから、単語、文法、表現等幅広く出題された。

7. 留学先大学で学んだ科目のうち特に良かったもの、後輩に勧めたいもの

ドイツ語会話の授業

8. 留学先大学の住居の種類等について、後輩にどのような寮・アパートを勧めるか

寮は学校側が指定するため、自分では選ぶことができなかった。

9. 寮・アパート生活での注意、生活の様子（行事など）、困ったこと、ルームメイトとの付き合い方、（いつから入れるのか、寮の開閉、寮が閉鎖中の滞在場所等）

寮では月に一度ほど、パーティーが開かれ、寮に住んでいる学生のうち数人が参加していた。

入寮日は、学校から指定される。

退寮は、期限があり、その期限までに自分で退寮する日を指定する。

10. 留学先での金銭の扱い及び貴重品の管理について

（どのような口座を利用したか、現金とかカードの利用は、自宅からの送金はどうしたか等）

大手のSparkasseという銀行で口座を開設し、そのカードでほとんどの決済を行った。

自宅からは直接口座に入金した。

11. キャンパス案内（どんなとき、どこへ行けばよいか等）

困ったことや分からないことがあると、国際課にいけば良い。

12. 現地案内（買物、銀行、レストラン、理髪店、美容院等の様子）

寮の目の前にスーパーマーケットがあり、そこで食料や生活用品を購入していた。焼きたてのパンが売られていたり、シャンプー等の生活用品が売られたりしており、とても利用しやすかった。

大学敷地内にケバブ屋さんがあり、このお店は日曜日も開いているため、よく利用した。

またその隣にバーがあり、学生がよく利用していた。

13. 失敗談（どんな小さなことでも）

帰国直前に風邪を引いてしまい、寮の部屋をあまり掃除することができず、デポジット料をとられてしまった。

14. 病気になった場合の対応について（医療費はどのようになっていたか、保険等はどのようにしたか）

日本から持って行った薬で対応した。ドイツの薬は、日本の薬を比べて効果がやさしい場合が多く、効かないことがあるかもしれない。

15. お世話になった方々

ドイツ語の授業の先生方。国際課の職員の方々。日本語学科の学生の方々。一緒に授業を受けた留学生の方々。

16. 留学先国内旅行について（場所、手段、費用、旅行社等）

学生には、公共交通機関に乗り放題のチケットが配られるため、国内であれば無料で旅行することができた。

場所としては、フランクフルト、ケルン、ドルトムント、デュッセルドルフ、シュトゥットガルト、ザールブリュッケン、フライブルク等に旅行した。

17. 気候と服装について

留学先のトリーアは、冬は曇りの日が多く、太陽があまり出なかった。そのため厚手のものをよく着用した。

夏は太陽が出てとても暑いので、Tシャツに半ズボンで生活していた。

18. 日本からぜひ持っていきたいもの（学用品、衣服、食品、薬、運転免許証等）

環境が大きく異なるため、体調を崩しやすいので、薬は多めに持って行った方がよい。

19. 留学に際し最も役立った本は（専門書，旅行案内書を含めて）

英語で書かれたドイツ語単語帳

20. ホームステイの依頼方法

21. 留学費用について

1) 旅費	(往) <u>12万円</u> , (復) <u>12万円</u>
2) 準備費用	<u>20万円</u>
3) 大学へ納入する費用	<u>0円</u>
授業料 (年間合計)	<u>10万円</u>
保険等その他の費用	<u>30万円</u>
4) 住居費 (光熱費等含む)	月々6万円
5) 衣服代, その他雑費	10万円
6) 帰国時の土産代, 郵送料等	10万円
7) 留学先国内旅行費用	0円
8) 上記を含めその他すべてを含めた合計金額	<u>約250万円</u>

22. 帰国時の荷物の作り方, 送り方等

荷物は送らず、すべてキャリーケースに詰め込んだ。

日本からは、捨てるでもよい服を持っていくと、荷物を小さくまとめることができる。

23. 留学して得たこと (全般についての感想文)

ドイツの1年間は、自立心と多様な価値観を育みました。言葉や文化の壁に直面し、一つ一つ自分で解決する力が身につきました。また、ヨーロッパ各国を巡る中で、日本の当たり前が世界ではそうではない実感しました。異文化を持つ友人の交流を通じ、固定観念にとらわれない柔軟な思考と、広い視野を得ることができました。また、ドイツ語のコミュニケーションでは、完璧な文法や発音よりも、伝えることを優先し、失敗を恐れない姿勢が身につきました。